

【教育目標】英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

# 中野だより

平成 31 年 3 月 1 9 日 発行 第 1 1 号 発行者:中野区立中野中学校

## あきらめたらそこで試合終了です！

(安西先生)

卒業式を控えた 3 年生へのアンケート「中野中図書館で一番好きな本」で堂々の 1 位に輝いたのが、『SLAM DUNK (スラムダンク)』だ。

ということであれば、3 年生の卒業前にこの話をしておかなければならない。

『SLAM DUNK』は、1990 年から「少年ジャンプ」に連載された、高校バスケットボールを題材とした少年漫画で、バスケットマンのバイブルである。2006 年に文化庁が実施した文化庁メディア芸術祭「日本のメディア芸術 100 選」の漫画部門で 1 位に選出。また、文芸誌『ダ・ヴィンチ』が行った漫画家、評論家、書店員、読者の総勢 808 人が選んだ漫画史 50 年の中のコミックランキングでも 1 位となった。

以下、コミック全 31 巻のあらすじである。



\* \* \* \* \*

神奈川県立湘北高校に入学した不良少年桜木花道は、身長と身体能力の高さを見込まれて同級生の赤木晴子にバスケット部への入部を薦められる。バスケット初心者の花道は晴子に一目惚れし、彼女目当てに入部する。しかし、練習や試合を通じてバスケットの真の面白さに徐々に目覚め、才能を開花させていく。

湘北バスケット部は安西監督の下、主将の赤木剛憲と副主将の木暮公延らに加え、花道やスーパールーキー流川楓らが加入。さらに、休部していた宮城リョータと三井寿が復帰する。

インターハイ制覇を目指す湘北は県予選を順調に勝ち進み、決勝リーグへ進出する。決勝リーグの初戦では前年優勝校海南大附属と対戦し惜敗するが、武里高校と陵南高校を破り準優勝し、優勝した海南大附属とともにインターハイ出場を果たす。インターハイ 10 日前、花道は 2 万本のジャンプシュートを練習し本番を迎える。

インターハイ 1 回戦、湘北は大阪代表の豊玉と対戦し勝利を収める。2 回戦の相手はインターハイ 3 連覇中の秋田代表の山王工業。残り時間 11 分 20 秒で湘北は山王工業に 20 点以上のリードを許す。観客も、記者も、会場全体が山王工業の勝利を確信した。

その時、安西先生は最後のタイムアウトを請求し、花道をベンチに下げる。花道は、「オヤジめ…、この天才を下げるとは…。あきらめやがったな!!」と心の中でつぶやく。花道の脳裏に「敗北」の 2 文字がよぎる。

だが、安西先生は「私だけかね…？ まだ、勝てると思っているのは……」と花道に問う。花道は安西先生に、「あきらめたんじゃないのか!? オヤジ…?」と尋ねる。

すると、「あきらめる？ あきらめたらそこで試合終了ですよ!」と言う。そして、リバウンドがいかに重要であるかを説き、花道をコートに戻す。

コート上の湘北メンバーの頭の中は「負け」の 2 文字に侵されていたが、花道に迷いはなかった。やるべきことは、ただ一つ。それはリバウンドボールを取ること。花道は、自分が必要とされ、期待されていると感じていた。

その後、湘北は花道の信じられない活躍で驚異的な反撃をする。試合終了間際、1 点差で花道は右 45 度の位置で流川からのパスを受ける。そして、「左手はそえるだけ」と念じ、大会前に 2 万本練習したジャンプシュートを放つ。放たれたボールは緩やかに放物線を描き、湘北のバスケットに静かに吸い込まれた。

電光掲示板は、残り時間 0 分 0 0 秒、湘北 79 - 山王工業 78 を示していた。湘北は大逆転勝利を収めた。

\* \* \* \* \*

スポーツ医学者・心理学者で文筆家の辻秀一氏は、著書「スラムダンク 勝利学」で次のように述べている。

「あきらめ」はセルフイメージ（自分像、自分自身への思い）を縮小させ、全力を尽くすという思考に反する。あきらめた瞬間に全力を尽くせなくなる。「もうだめだ」とか「やっぱり勝てない」などと考えることは、変化よりも結果を追いかけている証拠。変化を重要視し、変化から学ぶことを目標にしている選手はあきらめない。終わる瞬間まで変化はあり、学ぶこともできる。あきらめの思考は結果重視の発想であり、「今に生きる」「今すべきことをする」という大原則に反する、と…。

90 年代、「あきらめたらそこで試合終了ですよ」という言葉はバスケットマンだけでなく若者たちの心を大いに席卷し、「格言」となった。

義務教育を修了し、今後幾多の困難や試練に遭遇するであろう中野中学校第 7 回生に、安西先生の名言「あきらめたらそこで試合終了です」をおくり、3 月の巻頭言とする。

## がん教育講演会を実施

3 月 7 日(木)、東京女子医科大学がんセンター長の林和彦先生をお迎えし、3 年対象にがん教育講演を実施しました。

林先生は、少年時代に大好きだったお父様をがんで亡くされ、大人になったら医者になって父を奪ったがんと闘うことを決意し、実行しています。その一方で全国の小中高校に赴き、がんという



病気の理解に関する啓発活動を行っています。教員の免許も取得されたとのこと。

当日は、生徒だけでなく保護者及び教職員もがんに関する正しい知識とがん患者やその家族等のがんに向き合う人への理解を深め、改めて自他の健康と命の大切さを学びました。

90分間という時間の長さを全く感じさせない大変中身の濃い講演会でした。

### 〈お礼のことは〉

今日は、お忙しい中、私たちのために貴重なお話をしていただき、ありがとうございました。先生のお話の中で、「自分にしかできないことは、がん患者の方にとってとても大きな支えになる」という言葉がとても印象に残りました。

私は、身内ががんになってしまったことがあります。私は子どもながらにショックで、死んでしまうのではないかと不安になりました。抗がん剤の治療で髪が抜けてしまう姿を見て、心が痛くなりました。身内は私に笑顔で接してくれましたが、お見舞いに行くことしかできない自分がすごく嫌になりました。しかし、今日のお話を聞いて、あの時の自分でも、多少の支えになっていたと思うと、嬉しくなりました。

今後はがん患者の方々を支えるという意識をもって生活していきたいと思います。がん患者の方々の精神面を支えることができるのは身近にいる人しかできません。だから、自分しかできないことを全力でやっていきたいと思います。

(3D 今井 彩)

## 命の授業を実施

3月11日(月)、松が丘助産院院長宋祥子先生をお迎えし、第3学年対象に男女の体の仕組みや生命の誕生、命を育むことの大切さを学ぶ「命の授業」を行いました。

その後、3年生は出産間近の妊婦さんのおなかに触れたり、胎児の鼓動を聞かせていただいたり、0歳児の赤ちゃんを抱っこするなどのふれあい体験を行い、命の重さや尊さを学びました。



妊婦さんのおなかを触る生徒



A塚君のマスクを引っ張る赤ちゃん(笑)

## <各種表彰>

- 体育優良生徒  
福本 真士(3A)、石井 友唯(3B)
- 産業教育奨励表彰  
住谷 武蔵(3C)、吉田 茉紀(3D)
- 中野区教育振興会表彰(ボランティア表彰)  
高野 琴巴(3D)、足立 有伽(3D)、奈須 春花(3D)  
この表彰は他の模範となるようなボランティア活動を行った生徒を顕彰することを目的に昨年度創設されました。
- 中野区明るい選挙ポスターコンクール  
〈入選〉 石井 百夏(2)  
〈佳作〉 大澤 晶(2)、栗原 博彦(2)  
〈感謝状〉 中野中学校
- 社会を明るくする運動作文コンテスト  
〈中野区推進委員長賞〉 二上 結(1)

## 吹奏楽部ブロッサムコンサートのお知らせ

- 1、期日：3月23日(土)
  - 2、開場：13時15分
  - 3、開演：13時30分
  - 4、会場：体育館  
〈第1部〉 クラシックステージ  
ゲルダの鏡 他  
〈第2部〉 ポップスステージ  
名探偵コナン、ジブリメドレー 他
- \*1年生から3年生までの吹奏楽部全員による今年最後の演奏会です。どなたでもご覧いただけますので、どうぞお越しください。  
\*お越しの際は、早稲田通り沿いの北門から生徒玄関にまわってお入りください。  
\*自転車でのご来校はご遠慮ください。



3年学級委員が校長室訪問!?



卒業式予行で「旅立ちの日に」の全員合唱!